

教師と生徒の人間関係づくり

◆ 学級づくり・学級経営の基盤

- i 教師と児童生徒との信頼関係
- ii 児童生徒同士の信頼関係

1 子ども一人一人に「居場所」を保證できる教師でありたい

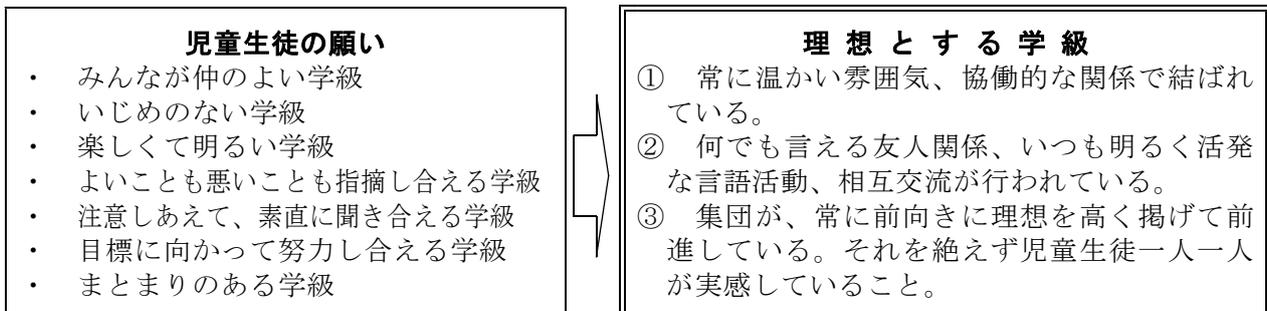
【 居場所を考える参考例 】

空間的な居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校や生活するための机や椅子が所属学級に確保されている。 ・ ロッカーに名札が貼られ、下足箱にも名前が明示されている。 ・ 4月の学級開きの前には、一人一人の名前ラベルを作り、机やロッカーに貼るなどの準備をする。落書きはないか、変な音はしないか、変形していないかなど交換、修理できるものはちゃんとしておく。 ・ 子どもがさわやかな気持ちで生活できるようにする。不備が出た時も、面倒がらずに児童生徒と一緒に問題を解決していく配慮を忘れない。
集団の中での居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目に見えにくく、学級生活の中で教師と児童生徒、児童生徒同士の相互の行為から判断される。 ・ 例えば、児童生徒自身が学級の役割を担っていると意識しているか。特定の児童生徒から押し出されるような雰囲気がないか。また、学級集団の動きが特定の児童生徒の考えや指示に従っていないかという観点からも判断できる。 ・ 学級の状態を把握するには、学級の児童生徒の動きに気を配ることも大切。できる限り教室で過ごし、児童生徒理解に努めることも必要になる。いつもと違う動き方、態度などに敏感になりたい。
心理的な面から見た居場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の中で、自分の思いが遠慮なく発言できたり、自分の考えで素直に行動できたりする。 ・ 人の目を気にしては、安心して生活できない。自分自身を安心して出せる。そして認めてもらえる。そのためには、失敗しても責めない態度や思いやりの心などを教師自身が示していく。 ・ 学級への所属意識の高まりは、一朝一夕にできるものではない。一人一人が、学級の中で相互に生かされていく、心の通い合う学級づくりがポイントになる。

2 子どもの願いを受け止める教師でありたい

(1) 学級への願い

【 学級の願いづくりの例 】



(2) 教師の願い

- 小学校低学年児童・教師から認められることを喜びと感じ、学級にいることへの不安感が取り除かれる。

- 小学校高学年児童・認められたいという欲求は一層高まり、教師や友だちとの人間関係そのものに大きな期待感をもつようになる。
- 中学校生徒……教師の人間性そのものに期待感をもつようになる。一人の人間、一人の大人としての見方をし、より批判的な見方も出てくる。

【 望ましい人間関係づくり 】

小 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生に声をかけられたい。 ・ 先生に「いい子だね」と言ってもらいたい。 ・ 先生に「よく頑張ったね」とほめてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生に「よくやったね」と頭をなでてもらいたい。 ・ 先生に気に入っているニックネームで呼んでもらいたい。
中 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私のいいところを見つけてほしい。 ・ 私と友だちの違いをはっきりさせてほしい。 ・ 先生は、同じことを人によって誉めたり、無視したりしないでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の言ったことを取り上げてほしい。
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生はいつでも公平であってほしい。 ・ 直したいところ、直した方がよいところを気持ちよく言ってほしい。 ・ 短所よりも長所、自分の弱点よりも自分の取り柄を重く見てほしい。 	

3 リーダーシップがとれる教師でありたい

【 学級のモラルづくり 】

- 教師の指導により、子どもは価値判断や行動の基準を自分の中に内面化し、習慣化していく。
- リーダーとしての教師を子どもは望んでいる。
 - ・ リーダーの学級への働きかけに立ち止まり、考え、学級が進むべき方向を設定していく。
 - ・ 教師の“語り”“話”は、特に大きな影響力をもっている。

【 教師の話の留意点 】

<p>① 明るく、さわやかに、簡潔に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の明るい笑顔やさわやかな一言は児童生徒を楽しく元気づけます。 ・ 教師の思いやりのある一言は児童生徒を安心させます。 ・ あくまでも、簡潔に。
<p>② ほめたり叱ったりは、常に全員を視野に入れて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人をほめたり叱ったりする時も、大きな効果をねらい、みんなの前で行う。 ・ そのときには、ほめられない子どもがいることや、子どもは叱られる子には極めて同情的であることを忘れないようにする。
<p>③ 時には“とっておきの話”“心温まる話”を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は日々の生活や、自分の体験の中で「ぜひ子どもたちに話してやりたいこと」を忘れずメモしておき、タイムリーに話そう。

4 言語活動に配慮できる教師でありたい

【 ある生徒の作文から 】

ある朝、健康観察簿を保健室に届けに行く時、職員室の前を通りかかりました。私の前を二人の先生が歩いていました。その時、先生たちの話が耳に入ってきました。

「今日ね、〇〇（呼び捨て）が休みなんだよ。」

「じゃあ、今日は静かだね。」

先生たちは、私たちのことをどう思っているのでしょうか。欠席している生徒を心配すらしていないのです。こんな状態では生徒と先生の信頼関係が薄れていくだけではないのでしょうか。

本当に私たちのことを考えてくれるのであれば、こんな会話や言葉は出てこないと思います。例えばその生徒に好意を持っていなくてもこの言葉は許せません。

- 教師の会話に見える発想
 - ・ 生徒の存在感を否定することにつながる
 - ・ 教師のお互いの言葉に敏感になる

- ・ 廊下という場所も考えるべきである
- 教師と生徒一人一人の人間関係をより望ましいものにするためには
 - ・ 日常の教師の言葉づかい、言葉を発する態度、言語活動全体を世大切にする。
- 言葉は、教師の品性や人間性、人間としての生き方を最もよく表し、子どもとの人間関係にも大きな影響を与えていく。

人間関係を温かくしていくもの

- ◇ 「どうということかな？」
 - ・ 子どもの心を自然に聞く
- ◇ 「そうだ、その通りだね。」
 - ・ うなずいて確かめていく
- ◇ 「できそうだ、大丈夫。」
 - ・ 力強く子どもの心を引きだしていく
- ◇ 「誰だって、そういう間違いはある。」
 - ・ 子どもの心に共感し、共有する
- ◇ 「よくやったなあ、できるじゃないか。」



人間関係を冷たくしていくもの

- ◆ 無意識に子どもを差別する
(比較する、極端に分ける、特別視する)
- ◆ 知らずに嫌悪し、蔑視する
(見下す、見下げる、無視する)
- ◆ わざと茶化し、皮肉を言う
(甘くみる、軽くみる、笑いの種にする)
- ◆ 時には脅し、怯えさせる
(どなる、ののしる、ばかにする)
- ◆ 忙しさをたてに、いい加減に対応する
(愛想づかし、鼻で笑う、視線を避ける、無表情、取り合わない)
- ◆ 絶えず、命令・指示ばかりする
(やれ! ふざけるな! のろのろするな! 言うことを聞け!)

5 出会いを大切にできる教師でありたい

【 出会いの新学期 】

- 学級開き…これから1年間の礎となる人間関係を醸成していく出会いを期待している
 - ・ 子どもの担任に対する期待は大きい
 - ・ 担任自身が心を開き、こんな人間だとさらけ出すことが大切である (胸襟を開く)
 - ・ 子どもに人間としての魅力を感じさせる

【 出会いのゲーム 】

- ××先生を知るイエス・ノークイズ
 - i 準備…「イエス・ノークイズ」のシート
 - ii 内容
 - ・ 4人以上の組を作り、机を寄せて座る。(各組同数)
 - ・ 担任自身に関するクイズを1問ずつ読み上げ、生徒はイエスかノーか相談してグループの答えを決める。
 - ・ 全問終わったところで、1問ずつ正解を言いながら、担任自身を面白おかしく自己紹介していく。
 - ・ グループ毎の正解数を挙手で確認し、1番多かったグループに拍手をする。
 - ・ 4人組で追加の質問を考えさせ、質問させていく。
 - iii 質問例 「××先生は国語の先生である。」 「××先生は東京出身である。」
「××先生には子どもが4人いる。」 「××先生の趣味は釣りである。」
- 親しみのある雰囲気を作るゲーム感覚の自己紹介「ジャンケンでホイ」
 - i 名刺大の白紙 (学級絵の人数分)、鉛筆を準備する。
 - ii 級友とジャンケンし、負けた者は相手のカードに名前と特技などを書く。
 - iii 今まで話したことのない級友と、次々に相手を変え、ジャンケンする。
 - iv 手持ちのカードに全部に書いてもらった者は、席に着きカードを読み自分との共通点をさがしてみる。
 - v 全員が終わったところで、出席番号1番から名前だけを言うていく。